

実践のまとめ（第2学年 英語科）

五泉市立村松桜中学校 教諭 谷澤 祐介

1 研究テーマ

いきいきと英語を話す生徒の育成 ～計画的な言語活動と中間指導を通して～

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

学習指導要領の外国語科の目標は、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す」である。

これまでの自分の実践を振り返ってみると、特に外国語を「話すこと」に関して、単元や授業の組み立て方に改善点があると感じた。計画的に言語活動を実施することができず、各活動につながりが乏しく、生徒が「できるようになってきた」と成長を感じる機会が少なかったように思う。また、言語活動を行なった際も、アウトプットを行うだけで終わってしまい、そのアウトプットが内容面や言語面について良かったか、どうすればさらに良くなるのかを考えさせる中間指導が不十分であった。

実際、7月に実施した生徒アンケートでは、約70%の生徒が「英語を話すことを苦手と感じている」と回答した。一方、4技能の中で「話す力」を一番つけたいと感じている生徒が最も多いことも分かった。自信をもち、いきいきと英語を話す生徒を育成したいと考え、この研究テーマを設定した。

(2) 研究テーマに迫るために

① 計画的な言語活動の実施

単元のゴール（の活動）を設定し、ゴールから逆算して単元計画を立てる。単元ガイダンスでゴールを生徒と共有し、見通しをもって学習を進められるように促す。単元末に自信をもってゴールの活動に取り組み、「できた、成長した」と生徒が達成感を感じられるように、単元ゴールに向けた言語活動を計画的に行う。

② 効果的な中間指導の工夫

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」には、中間指導に関して以下のような記述がある。

「表現内容の適切さという点（内容面）と、英語使用の正確さという点（言語面）の2点からの指導を、複数単元（1課～3課）を通して行う。当該学期を通じて、言語活動に取り組みせながら、学期末で評価することを指導するということである。このような内容面と言語面からの指導は、単位時間の授業においても行われることが求められる。」

上記のように、言語活動をより良いものにしていくために、単位時間内に内容面と言語面の中間指導を継続的に行なっていくことが求められている。生徒の言語活動を見取り、その場に応じた効果的な中間指導を継続的に行う。

(3) 研究テーマに関わる評価

①アンケートを実施する（1回目：7月、2回目：11月）

「話すことが得意か」「話すことが楽しいか」の数値の変容と自由記述から判断する。

②抽出生徒の言語活動の様子を録画する

単元内で複数回録画し、言語活動の様子に変容から判断する。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

Lesson 6 Friends from Singapore

Project 2 人気のあるもの調査 (NEW CROWN English Series 2 三省堂)

(2) 単元の目標

クラスメイトとさらに親睦を深めるために、クラスメイトに好きなもの等を調査して、クラスメイトに「なるほど、おもしろい」と思ってもらえるように、調査結果を伝えることができる。「話すこと[発表]」

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
[知識] 形容詞・副詞の比較級や最上級、同等比較を用いた文の構造を理解している。 [技能] アンケートの調査結果について、形容詞・副詞の比較級や最上級、同等比較などを用いて話す技能を身につけている。	クラスメイトに「なるほど、おもしろい」と思ってもらえるように、アンケートの調査結果について、簡単な語句や文を用いて話している。	クラスメイトに「なるほど、おもしろい」と思ってもらえるように、アンケートの調査結果について、簡単な語句や文を用いて話そうとしている。

(4) 単元ゴールのモデルテキスト

①アンケート

A: Hi, can I ask you a question?

B: Sure.

A: What sport do you like the best?

B: I like table tennis the best.

A: Oh, you like table tennis. Do you play it?

B: Yes. I'm on the table tennis team.

A: Thank you so much.

②調査結果の発表

(iPadを使って) Hi, everyone. I asked my classmates, "What sport do you like the best? What sport is the most popular of the four? What do you think?" Let's check it out! The most popular sport is...table tennis! What is the second most popular sport? The second most popular sport is...basketball! Which is more popular, tennis or volleyball? Tennis is more popular than volleyball. I'm surprised that table tennis is more popular than I thought. Thank you.

(5) 単元の指導計画と評価計画 (全15時間、本時4/15時間)

次 (時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1 (1)	・教師がゴール活動の見本を示す ・ゴールの活動に挑戦する	◎単元のゴール活動と学習の見通しをもつことができる	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動状況を観察し、指導に生かすことを毎時間行う。 </div>
2 (3) Part 1 本時 3/3	・-er, -estを用いた文の導入、パンプラクティス ・教科書本文の内容理解 ・クラスメイトに-er, -estを使ってグラフやランキングを紹介する	◎-er, -estを用いた文の意味や使い方を理解できる ◎教科書本文の内容を理解することができる ◎グラフやランキングを紹介することができる	
3 (3) Part 2	・more, mostを用いた文のパンプラクティス ・教科書本文の内容理解 ・more, mostを使ってグラフやランキングを紹介する	◎more, mostを用いた文の意味や使い方を理解できる ◎教科書本文の内容を理解することができる ◎グラフやランキングを紹介することができる	
4 (2) Part 3	・同等比較やbetter, bestを用いた文のパンプラクティス ・教科書本文の内容理解	◎同等比較や better, bestを用いた文の意味や使い方を理解できる ◎教科書本文の内容を理解することができる	
5 (2) USE Read	・概要を捉える ・読んだ内容を基に、モナに送るメールを書く	◎モナからのメールの概要を捉え、返信メールを書くことができる	
6 (2) 単元ゴール	・アンケートをとる ・調査結果をまとめ、クラスメイトに伝える	◎クラスメイトに好きなものを調査して、調査結果を伝えることができる	
7 (2) パフォーマンス テスト	・初見のグラフやアンケートについて、その内容を伝える	◎初見のグラフやランキングについて、相手に「なるほど、おもしろい」と思ってもらえるように、内容を伝えることができる	下記の通り、パフォーマンステストで評価を行う。
<p>【パフォーマンステストの評価規準】</p> <p>知識・技能 比べる表現を正しく用いている</p> <p>思考・判断・表現 相手に「なるほど、おもしろい」と思ってもらえるように、初見のグラフやランキングについて伝えている</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 相手に「なるほど、おもしろい」と思ってもらえるように、初見のグラフやランキングについて伝えようとしている</p>			

4 単元と生徒

(1) 単元について

言語材料として取り扱う比較表現は、相手を納得させたり、事実を分かりやすく伝えたりするための有効な方法となる。その特徴を生かし、言語活動を行う。題材であるシンガポールは多言語・多文化社会である。日本との違いに気づき、国際的な視点を得ることができる。また、シンガポールからの中学生の感想を読み、当たり前を感じる日本のよさを再発見できる。

(2) 生徒の実態

事前のアンケート結果から、英語を話すことを苦手と感じている生徒が約70%程度いるが、話す力を伸ばしたいと感じている生徒が多くいる。クラスの雰囲気については、英語でコミュニケーションをとることに抵抗を感じる生徒は少なく、前向きに言語活動に取り組む生徒が多い。間違いや失敗をネガティブに受け止めず、「気づき」のきっかけにしようとする雰囲気があり、良好な人間関係を築くことができている。

5 本時の展開（令和7年11月19日実施）

(1) ねらい

クラスメイトに「なるほど、おもしろい」と思ってもらえるように、グラフやランキングを紹介することができる。「話すこと[発表]」

(2) 展開の構想

① 単元ゴールの類似活動を行う

単元の最後に、自ら調査したアンケート結果を相手に伝える活動を行う。本時の活動は、使用する言語材料をある程度限定した単元ゴールの類似活動であり、生徒がスモールステップで単元のゴールに向かうことができるようにする。

② 中間指導を充実させる

言語活動の様子を見取り、その場に応じた内容面と言語面の中間指導を効果的に行う。内容面については、相手が「なるほど、おもしろい」と思うかどうかに関心を当てる。言語面については、「-er, -est を用いた文」に関心を当てる中間指導を行う。

中間指導の方法は、生徒に発表をさせたり、生徒のメモを紹介したりするなどして生徒同士で良い点を共有し合えるようにする。言語面の中間指導では、共通して見られる間違いを板書し、どこが違っているか全員で確認し、自分の間違いを自ら修正できるよう促す。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	○教師の働き掛け ●予想される生徒の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
導入 (10)	①Today' s English（帯活動） 日直が自由に英作文を黒板に書き、修正点や意味を考える ②-er, -estを用いた文の復習		

展開 (35)	①課題の提示		
	クラスメイトに「なるほど、おもしろい」と思ってもらえるように、 グラフやランキングを紹介しよう！		
	②生徒が自分で準備した資料をもとに、メモを作成する。	●例文シートの英文が使えるな。どういう伝え方をしたら「なるほど、おもしろい」と思ってくれるかな。	○教室をまわり、個別支援を行う。
	③クラスメイトに紹介 1回目	●ペアの生徒が言っていたこの表現が使えるな。	
	④中間指導 1 良い発表をした生徒が全体へ発表し、何がよかったのかをメモと共に考え、共有する。	○発表者のメモや紹介において、何が良かったかを考えさせる。	◇内容面を中心に行う。 聞き役の重要性も伝える。
	⑤メモパワーアップ（1回目）	●質問を入れてみよう。自分の気持ちを入れてみよう。間をあけながら話してみよう。リアクションをしながら聞こう。	□クラスメイトに「なるほど、おもしろい」と思ってもらえるように、グラフやランキングを紹介できたか。
	⑥ペアを替えて紹介 2回目		
	⑦中間指導 2（1と同様）		
	⑧メモパワーアップ（2回目）	○必要に応じて言語面の中間指導を行う。「-er, -est を用いた文」に焦点を当てる	
	⑨ペアを替えて紹介 3回目		
終末 (5)	・発表した内容を書く		□正しく英文が書けたか。

(4) 評価

クラスメイトに「なるほど、おもしろい」と思ってもらえるように、グラフやランキングを紹介できたか。【思考力・判断力・表現力 見取り】

6 実践を振り返って

(1) 授業の実際

単元実施後の生徒の姿をイメージしてゴールの活動を決め、そこから単元計画を立てた。生徒が単元末の活動に自信をもって取り組み、達成感を得られるよう、スモールステップで計画的に言語活動を設定した。本時はその言語活動の2回目であった。

本時で特に意識したことが2つあった。まず、表現の拠り所となるインプットを事前にしっかりと行っておくことである。これまでの言語活動の反省点として、言いたい表現がある時、翻訳サイトを使って再現性のない難しい英文を作る生徒が多かった。例文シートを使い、語彙や文法が分かる英文をしっかりとインプットしておくことで、自分と相手が分かる英語を使うことができる生徒が増えた。実際、公開授業の数日後、単元末の活動に

向かう3回目の言語活動を行った際に、翻訳サイトを使用せず、本時で使用した表現を元に英文を作る生徒が多く、身に付けてほしい知識・技能が定着していることが分かった。

2つ目は、言語活動において効果的な中間指導を行うことである。アウトプットをより良くするために、中間指導が大切である。本時では中間指導を2回行い、いずれも内容面について取り上げた。言語活動の見取りから、特に英語が得意な生徒にとって、この中間指導が自身のアウトプットを改善する参考になったと思われる。しかし、授業後の協議会において、今回の言語材料を正しく使うことができていない生徒が複数いたことが分かった。改善点として、1回目の中間指導を言語面に焦点を当てて、クラス全員が「-er, -estを用いた文」を正しく使うことができる指導に注力しても良かったと感じた。中間指導において、その場での見取りの難しさと大切さを学んだ。

最後に、本時において新しい発見があった。それは、生徒が自身で準備した資料について、気持ちをこめてアウトプットを行っていたことである。もともと本時で使用する資料はこちらで準備する予定だったが、思い切って生徒に作成を任せてみた。興味や伝えたいことは生徒それぞれであり、聞いている相手も楽しそうであった。今後も生徒の「表現したい、伝えたい」気持ちを引き出せる手立てを考え、生徒に任せる部分を増やしていきたい。

(2) 研究テーマに関わる評価

① 以下は生徒アンケートの結果である（図1）。

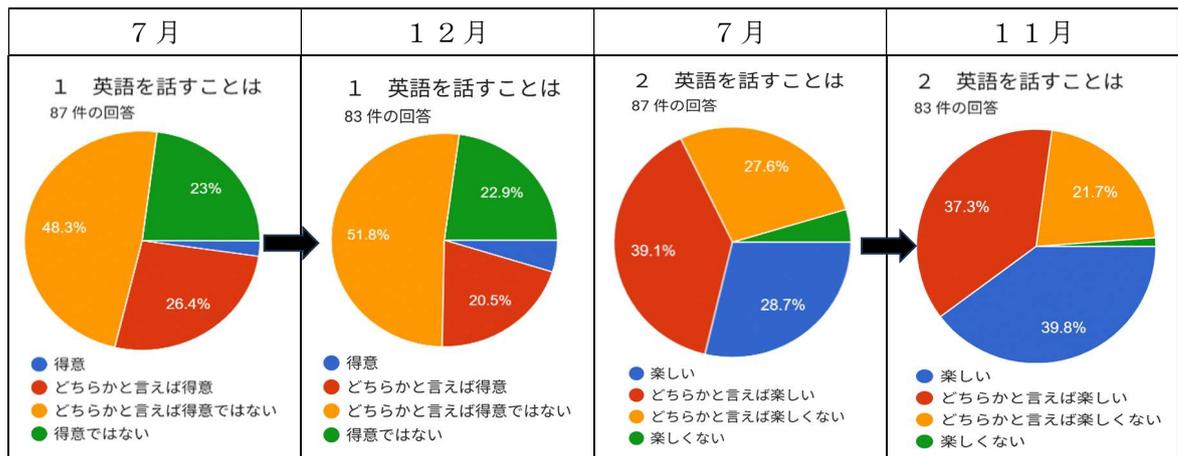


図1 生徒アンケート結果（実施：7月と11月 対象：2年生3クラス）

質問項目1の「英語を話すことが得意か」の数値に関しては、あまり変容が見られず、むしろ肯定的意見の割合が少し減少してしまった。原因としては、本研究の手立てを講じた期間が短く、生徒が自身の成長を実感できていないことが考えられる。これまでの自分の指導法を改善し、今後も計画的に言語活動を進めていく必要がある。質問項目2の「英語を話すことが楽しいか」の数値に関して、変容が見られた。肯定的意見の割合が67.8%から77.1%に上がった。以下は、アンケートの自由記述の抜粋である（表1）。

表1 生徒アンケート自由記述抜粋

7月	12月
<ul style="list-style-type: none"> 英語が分かって話せると楽しいけど、分からないと楽しくないから。 英語があまり分かっていなくて、喋れないから楽しくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ちゃんと会話が成立したら嬉しいし、達成感があるから。 得意ではないけど、しっかりと話せる達成感があるから楽しい。

生徒のコメントから、生徒は英語が分かり、それを使って話したり、やりとりしたりすることができた時、達成感を得て楽しいと感じることができると思われる。本実践では、単元のゴールに向かって計画的に言語活動を設定することで、使用する英語につながりをもたせることができた。生徒は繰り返し似た表現を使用することで、知識・技能が定着し、「できた」という達成感につながったと考えられる。

② 抽出生徒の録画

抽出生徒の言語活動の様子を単元内で複数回録画した。単元の最初の授業では、クラスの中で1番人気があるスポーツに関して、“Table tennis is No.1 in this class.”と言っていたが、言語活動を重ねると、最上級や比較級を使ってランキングを表現することができていた。また、“Which character is the most popular of the four? What do you think? I’ m surprised that ….”のような表現も繰り返し使用することで自然と言えるようになった。発表のためのメモに要する時間も徐々に減少し、準備した文字を読むのではなく、使用する英語を自分の道具として使いこなしている様子がうかがえた。計画的に言語活動を設定することで、生徒は自信をもっていきいきと英語を話すことができるようになり、それが達成感につながったと考えられる。

(3) 今後の課題

① 異なる単元の言語材料を繰り返す使用する言語活動の実施

本研究において、単元内の言語活動を計画的に行うことが、成果につながるということが分かった。しかし、本単元で使用できた比較級や最上級等の表現も、次の単元以降も繰り返し使い続けなければ、生徒はいずれ表現できなくなってしまうだろう。今後の私の課題（やりたいこと）は、年間を通して、計画的に言語活動を設定することである。既習の言語材料を繰り返し使用し、自分の道具として使いこなせる英語を増やすことで「英語を話すことが得意だ」と肯定的に感じる生徒を増やしていきたい。

② 教科書本文を言語活動につなげる

本研究では、単元末のゴールの活動を設定する時、教科書本文の内容（シンガポールや日本の文化）につながりをもたせられなかった。生徒が「伝えたい、話したい」と思う活動を考えた時に、それらに関連させることが難しかったためである。しかし、教科書本文を使用し、読む力を含めた4技能を伸ばすことも大切である。教科書本文を「読みたい、聞きたい」と生徒が感じるためには、教科書本文に触れる前後の活動の工夫が必要である。読んだことについて意見を交換したり、感想を書いたりする領域を統合した言語活動は学習指導要領でも言及されており、単元計画に取り入れていきたい。

最後に、生徒が「伝えたい、話したい」と思う、統合的な言語活動を続け、楽しみながらいきいきと英語を話す生徒を育てていきたい。

<参考・引用文献>

文部科学省, 中学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 外国語編, 東京：開隆堂出版株式会社, 2018.

国立教育政策研究所, 「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」, 東洋館出版社, 2020.